☆☆　新型コロナウイルス感染症ニュース　第 79 号　2021.8.10　☆☆

オリンピックは無事閉幕いたしましたが、新型コロナウイルス感染症患者さんは増加傾向が続き、仙台でも予断を許さない状況です。今回は感染拡大防止のためにワクチン接種の現状、特に今後満 12 歳以上の若年者にも接種対象が広がることを踏まえて、現状を整理いたしました。

仙台市における新型コロナウイルスワクチン接種の現状

接種券はこれまでに 16 歳以上の市民の方へ配送されており、8 月 6 日には満 12 歳以上 15 歳以下の方への接種券も発送され、現在では満 12 歳以上全ての市民の方へ接種券が配送されております。

8 月 10 日（火）・**優先接種対象者**（60 歳以上と基礎疾患のある方および市独自の優先接種対象者）の、**集団接種の受付**再開

・バイタルネットから各医療機関へ、**8 月 23 日（月）から 10 月 3 日（日）までの 6 週分のワクチン移送可能量を通知**（週 6V 以上ご希望の医療機関様は一律 3 割の減量となります。3 週間隔、**2 回接種分**としてご検討ください）。

8 月 16 日（月）の週・接種券のあるすべての市民へ「優先対象以外でも 23 日から予約が開始される」内容を周知するハガキ発送

8 月 17 日（火）・**ワクチン移送希望量・希望日**を、各医療機関からバイタルネットへ FAX 連絡

・各医療機関の 8 月 23 日以降、仙台市 HP への掲載内容についての確認締め切り

8 月 22 日（日）・**集団接種**で**優先対象者**の**接種再開**

8 月 23 日（月）・**すべての対象者の集団、個別接種の受付開始**。個別医療機関の接種の開始は、各医療機関の状況に応じて行われることになります。10 月 3 日までの個別接種分は、先のワクチン配送量に基づいて計画してください。

9 月 1 日（水）　・仙台市の接種に三師会が協力する方式で、**平日準夜帯**（毎週、水・木、18:45～20:15）のワクチン接種開始

10 月 4 日（月）・以降のワクチン移送量については、早めに改めてアンケートと通知をいたします。

【市ホームページへの医療機関情報の掲載再開について】

- **8 月 23 日（月）より、市ホームページへの医療機関情報の掲載を再開**いたします。
- 掲載は以前のアンケートで「引き続き協力」とお答えいただいていた医療機関のうち、8 月 20 日（金）朝 8 時の段階で、**V-SYS 上の受付状況が「○：予約可能」「△：若干空き有り」「◇：予約不要)」**となっている医療機関を掲載します。
- 8 月 24 日以降は、市ワクチン接種推進室にて、**毎週月曜日に V-SYS の各医療機関の情報を確認し、火曜日に HP を更新**してまいります。一度非掲載となりました医療機関についても V-SYS 上の受付状況が「○」「△」「◇」になりました際には**再度掲載**いたします。掲載内容に変更がある場合には、**医師会事務局へご連絡**願います。

【接種実績の V-SYS への入力について】　7 月 30 日（金）夕方より、V-SYS の「接種実績等の報告」入力画面にて「医療従事者」「高齢者施設等従事者」への入力が不可となっております。詳細は先日の通知をご確認ください。予診票の記載方法については変更ありません。　　（CVPT、福壽岳雄）

小児への新型コロナウイルスワクチン接種について

【接種の意義に関して】

「子どもへの新型コロナワクチンの有効性や安全性に関する海外からの情報によると、他の接種年齢群と同様の高い予防効果が期待でき、ワクチン接種は子どもにおいても日常生活を取り戻すための重要な対策の一つとなり得ます。一方で、ワクチン接種後の発熱、倦怠感、頭痛、悪寒、接種部位の疼痛などの副反応の多くは数日で自然軽快することが分かっています。（略）現時点（2021 年 7 月 14 日）で日本小児科

学会としては12歳以上の健康な子どもへの接種は意義があると考えます。」（日本小児科学会）

【副反応に関して】

CDCの12～17歳のデータでは、1回接種後の局所反応63.9%、全身反応48.9%で、注射部位の痛み、倦怠感、頭痛、および筋肉痛が多く、1回目接種より2回目の方が頻度が高いとされています。2回接種後に約1/3が発熱。ほぼ1/4が日常生活に影響があったと報告。いずれの症状も2～3日で軽快しています。アナフィラキシーも含めて医療を必要とした例は1%未満。死亡例がありましたが、因果関係は証明されていません。非常にまれですが、主に若年男性において接種数日以内に心筋炎が発生することが報告されています。入院は必要になりますが、ほとんどは軽症であるとされています。

事前承認の臨床試験で報告されたものと同様の頻度で、小児だから副反応が強いわけではありません。

【接種に関して】

①本人と養育者に対してメリットとデメリットを共有します。接種翌日の副反応に備え、登校や課外活動への対応を伝えることが重要です。

②接種は落ち着いた環境でリラックスさせるよう心がけます。過去に注射や採血で気分が悪くなった既往歴では、仰臥位で接種し、すぐに立ち上がらせないなどの配慮が必要です。

③接種後は15～30分ほど観察を行う待機場所や医療資材の準備が必要です。

【副反応への対応】

副反応としての発熱や頭痛への鎮痛解熱剤の使用は成人と同様です。アセトアミノフェンは比較的安全性が高く、小児や妊娠中・授乳中でも使用可能です。症状が出てから服用することが勧められ、副反応予防としては推奨されていません。

ワクチン接種後に失神発作を起こす血管迷走神経反射はCDCレポートでは約6割が女性で、年齢中央値は15歳でした。注射への恐怖心が強い、起立性調節障害を有する人にリスクが高いとされています。顔面蒼白、全身の冷感、血圧低下と徐脈、失神が見られ、アナフィラキシーとの鑑別が必要になることがあります。下肢を軽く挙上し安静臥床によりほとんどの場合は改善します。

アナフィラキシーは血管迷走神経反射と同様に見えますが、複数臓器に症状が出ることが鑑別となります。詳しくは成書を参考にしてください。

対処法は成人と小児で変わることはありません。以下対処法を示します。

1. 血圧測定、動脈血酸素分圧濃度測定、心電図モニター装着。
2. 0.1% アドレナリンの筋肉内注射(成人0.3～0.5 mL)。小児：0.01 mL/kg、最大0.3 mL。
3. 応援（救急車）を要請
4. 必要により血管確保、酸素投与（小児用マスク）、気管挿管（小児用チューブ）を考慮

以上、小児の新型コロナウイルスワクチン接種に関しての情報を提供させていただきました。今後の接種にお役立ていただければ幸いです。　　(CVPT、川村和久)

アストラゼネカ社ワクチンの接種体制及び流通体制の構築について(R3.8.4)

アストラゼネカ社ワクチン（以下「AZ ワクチン」）については、令和3年8月3日から臨時接種に位置付けられました。

１．AZワクチンの対象は原則40歳以上であり、下記の場合を除き18歳以上40歳未満の者は対象外となります。

①　他の新型コロナワクチンではなく特にAZ ワクチンの接種を希望する場合（他の新型コロナワクチン含有成分へのアレルギーがある場合等）

②　他のワクチンの流通停止等、緊急の必要がある場合

２．AZワクチンの接種体制の基本的考え方…実際にAZワクチンを必要とする者としては、

①　ポリエチレングリコール（PEG）に対するアレルギー等で、mRNA ワクチン（ファイザー社ワク

チン、モデルナ社ワクチン）を接種できない者

② 海外で AZ ワクチンを１回接種済みの日本在住の者

③ 40 歳以上で AZ ワクチンの接種を希望する者

が想定されます。

AZ ワクチンを必要とする者が、身近なところで接種を受けられるように、各都道府県に少なくとも１カ所、接種を行う会場を設置することが適当。また、AZ ワクチンには重篤な副反応として、「血小板減少症を伴う血栓症」が知られており、接種数の多いイギリスでは、１回目接種において 100 万回あたり 14.8 件、２回目接種において 100 万 回あたり 1.9 件と報告されています。

ワクチン等の配送は、緊急事態宣言対象外の全国の自治体は８月 23 日（月）から順次配送。9 月末までの配分量は 1,000 回を上限とし、納入希望量を踏まえて決定されます。

ニュース部、ワクチン担当チームより　（79 号担当　福壽岳雄）

現在感染拡大に歯止めがかかっておりません。改めて２回接種の終了者も含めて、各自の感染拡大防止の意識を高めたいところです。

仙台市医師会へのご意見・ご質問等は FAX、メールでお願いいたします。

FAX：022-267-5193　　メール：sen-ishi@sendai.miyagi.med.or.jp